

市総合防災訓練

9月4日（日）午前8時～

—— 震度7 下呂市を震源とする地震が発生 ——

○訓練の想定

地震により家屋の倒壊、火災発生、土砂崩れや橋の崩落により道路が寸断。電気、ガス、水道、電話に被害が生じた。

○訓練の内容

1. 各地区・自主防災組織による訓練
訓練モデル地区（5地区）
2. 協定団体との連携訓練（1地区）

市からの防災行政無線の放送をよく聞いて行動してください。避難場所では自治会、防災組織のリーダーの指示で訓練に参加してください。

自主防災組織訓練 《各地区で実施》

地域のことは、地域に住む人が一番よく知っています。その地域の人々が実践的な訓練を積み重ねることで、いざ災害が発生した時に大きな効果が期待できます。

各区の訓練計画に基づき実施します。

団体連携訓練 《1地区で実施》

大規模災害時では、通信手段につながらないといった混乱が生じます。被災地の状況をすばやく、的確に把握し、応援体制を築き上げる訓練を実施します。

【総務部総務課】

災害からあなたの大切なものを守るために
あなたにもできる地域貢献 家族で参加しよう！



自主防災組織の 必要性

大規模災害が発生したら、
行政も同時に被災し、すぐの対応は難しい。
まずは地域の力で生き延びなければならない。
そのためには自立した地域づくりが求められる。

地域や家族を守る

東日本大震災において、津波からの避難や避難所の運営等、地域社会の担う役割の重要さは、多くの人々が再認識するところとなりました。

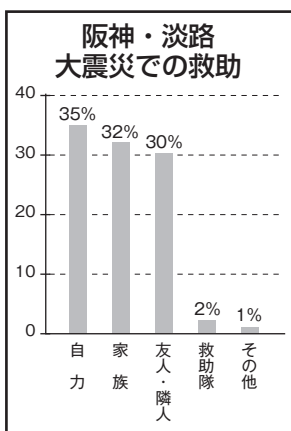
地震等の広域な災害がおきた場合、行政も同時に被災することとなり、災害の規模が大きくなればなるほど行政の機能は著しく低下します。

「災害発生から3日間は、自分たちの力と、地域の助け合いで、何とかして下さい」こういった背景があり、3日経てばなんとか外からの支援が届くようになると考えられるからです。

まずは自分たちの力、地域の力で生き延びなければなりません。「自分たちの家族や地域は自分たちの手で守る」自主防災組織の多くは、このような思いで結成されています。

阪神・淡路大震災を契機に

およそ6千人もの死者を出した阪神・淡路大震災を契機に、地域コミュニティと自主防災体制の重要性が認識されました。



危機管理は準備と 訓練の積み重ねで

私たちが暮らす下呂市には阿寺断層帯が存在しており、国内の活断層では地震の起きる発生の高いグループに属しています。いつ起きるかわからない災害。いざというとき、私たちは大切な命や財産を守るための危機管理を自ら行っていく必要があります。

この震災で倒壊家屋からの救出など救助された人の98%が自力、家族、友人によるもので、隣近所などの被災者同士で助け合わなければならない状況であったことを表しています。



防災無線による広報

被災地で感じた防災への備え



ボランティアを募り東日本大震災被災地で支援活動を実施している
非営利のボランティア組織
「KI(気持ちいっぱい)プロジェクト」
金山町金山 鎌倉庄司さん

私は震災後に3回ボランティアで宮城県へ行きました。3回目に行ったところは消防団の副団長のご自宅だったので、当時の様子を詳しく伺うことができました。

副団長として一番残念だったのが、「防災に対する準備不足」だったそうです。それなりの準備はしていたが、「本番に対する意識が低かった」と話されました。高額な予算で準備した防災設備も、訓練や事前準備がされていなかったため、十分に活かされなかったことが悔やまれる」と話していただきました。

地震をはじめ天災はいつ起きるかわかりません。想定以上のことが起きる可能性もあります。今私たちが天災に対してできることは、『徹底的に準備すること』『訓練のための訓練ではなく、本番を想定した訓練をすること』だと感じました。